

点検検証部会第2ワーキンググループ第3回会合 議事概要

1 日 時 平成31年4月5日（金）9:00～12:02

2 場 所 総務省第2庁舎 3階第一特別会議室

3 出席者

【委 員】

西郷 浩（座長）、川崎 茂、嶋崎 尚子

【専門委員】

篠 恭彦、川口 大司

【説明者（各府省等）】

農林水産省

【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官、平野大臣官房審議官、澤村統計審査官
統計委員会担当室：櫻川室長、永島次長、阿南次長、柴沼次長

4 議 題

- （1）農林水産省の基幹統計調査について（ヒアリング）
- （2）その他

5 概 要

（1）農林水産省所管の基幹統計調査について（ヒアリング）

事務局から、資料に基づき項目ごとに総括的な説明が行われ、ヒアリングが実施された。

主な発言は以下のとおり

- ・調査によっては期間が長く、内容も詳細なかなり負担の重い調査であるところ、時には空白回答なども想定されると思うがどう対応しているか。
→農業経営統計調査では、ご本人にお願いして関係書類などを見せていただき、職員や専門調査員が資料をもとに聞き出しながら回答を埋めていく等、丁寧な対応を行っている。
- ・集計段階のシステムによるチェックは時系列チェックのみであり、表内検算はやってないと回答されているが、なぜか。
→システム開発をする段階で、テストデータ等を用いて表内集計に誤りがないか事前にチェックしていることから、実際の調査結果で表内集計の誤りは発生しないと理解しているので、表内検算は行っていないと回答したところ。
- ・地方自治体で行っている調査票の入力・審査について、その修正履歴はどこに保管されているか。
→個票審査におけるデータの修正履歴は、システム・ログ情報として各自治体において、

国が確定値を公表するまで保管するよう指示しており、その後、各自治体で削除しており、国への報告は求めている。

- ・地方公共団体、調査員の履行確認については行っているか。
→調査終了後に各都道府県を集めて調査の実施状況、結果についてヒアリングを行っており、その中で調査員への適正な指導を行っているか確認している。
- ・地方組織における人材の確保、現在年齢構成や人材育成はどうなっているか。
→地方組織では平均年齢が50歳を超えており、最近、本省での新規採用を再開して若手職員の確保育成に努めているところ。限られた人員で現在の統計を維持できるよう、専門調査員の導入、オンライン化の推進、民間委託の拡充等を行っている。
- ・統計部局以外の部局への支援は行っているか。
→統計部局以外の職員に対し、総務省への承認申請におけるルール等について説明会を行っている。また、「統計データ利活用サポート窓口」を設置し、年100件程度、標本設計等の技術的な相談や、組替集計結果の提供、調査票情報の提供、統計データの所在案内等に応じている。
- ・農林業経営体調査のオンライン回答率は0.73%と非常に低い、なぜか。
→回答者である農業者は高齢の方が多くパソコンの操作に不慣れであること、調査事項が膨大であり、紙の方が作業しやすいと認識されていることが理由と思われる。
- ・農林業センサスで数値訂正が最も多い理由は何か。
→報告書を編集する作業において、手作業でのミス、例えばエクセルシートの貼り間違い等のミスが15件中11件と最も多い。今後、気をつけていきたい。

(2) その他

事務局から次回の日程について報告があった。

(以 上)

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>